

幼小接続 取組リーフレット

幼小接続について、各園（所）、小学校が取組の現状を確認し、今後の取組に踏み出すために次のように、本リーフレットをご活用ください。

- ◆皆さんの園（所）、学校の幼小接続の取組がどのような状況か、幼小接続・確認シート（p 4）で確認してみましょう。



- ◆各園（所）、学校の実態に応じた幼小接続にはどのような取組がよいか考え、実践してみましょう。

→ モデル校区の取組例（p 2～3）を参考にしてみましょう。

※「わくわく・きときと」接続ガイドもご活用ください。
（県幼児教育センターHP）

<https://www.pref.toyama.jp/3002/kurashi/kyouiku/kyouiku/kj00021861.html>



令和3年度幼児教育・小学校教育接続推進事業 モデル校区の取組例

☆コロナ禍でもできる交流活動の工夫・・・A校区



5年生と年長児がリモートで交流
＜5年生＞小学校の魅力の発信
最高学年への期待感の高まり
＜年長児＞小学校生活への期待感の高まり
新6年生への親しみ

リモート交流は臨場感があり、
つながりを感じながら交流できた。

☆ねらいを明確にした体験学習・・・B校区

夏休みに年長児が小学校で体験学習
＜年長児、保護者＞小学校生活への期待感や
安心感の高まり
＜小学校教員＞来年度入学児童の実態を把握

体験学習をきっかけに、保育所と小
学校の連携を深めることができた。



☆交流活動後の授業公開と協議会・・・C校区



生活科で1年生と年長児の交流後、授業公開、協議会
・授業を通して関わることの重要性を実感
・発達の連続性を意識することの重要性を確認

保育者と小学校教員が意見交換する
ことの大切さを、互いに共有するこ
うができた。

☆保育参観や学習参観等での保育者と教員の交流・・・D校区



少しずつ時間の都合をつけて参観
＜小学校教員＞幼児教育を知る機会
＜保育者＞小学生になった子どもの姿を見て安心感の高まり

保育参観、学習参観等を通して子
どもの発達の連続性を理解するこ
うができた。

☆保育者と小学校教員が顔を合わせて語る研修会・・・E校区

講師を招いて合同研修会を開催

- ・ 交流、連携、接続の違いの理解
- ・ 子どもの様子について情報交換

保育者と小学校教員が合同研修会を行い、幼小接続について共有することができた。



☆スタート・カリキュラムの作成・・・F校区

保育者と小学校教員でスタート・カリキュラム作成

- ・ 互いの顔が見える関係づくり
- ・ 互いの保育、教育への思いや願いの共通理解



合同研修会を行い、学びを積み重ねることで、実態に合ったスタート・カリキュラムが必要であることがわかった。

幼小接続 Q&A

- <Q> 1年生担任と年長児担任等、一部の担当者間の連携になりがちで、学校全体で幼小接続に取り組むことが難しいと感じています。
- <A> 1年生担任以外の教員が園、所を訪問したり、保育者に公開する授業の授業案検討を若手教員の研修として位置付けたりするのはいかがでしょうか。
- <Q> 児童が入学してくる園、所が多くて、連携が難しいと感じます。
- <A> 最初から全ての園、所と連携しようと思わずに、まずは連携しやすい園、所と連携を図ることから始めてみましょう。また、幼小接続は、小学校に入学してくる子供たちがスムーズに小学校生活に移行できるように何をしたらよいか考えることが大切なので、小学校教員だけで幼児期の教育や生活について研修する機会をもつこともよいでしょう。
- <Q> 幼小合同研修会をしたくても、時間が合わなくて開催できる日が決まりません。
- <A> 保育や授業の様子を録画してそれぞれの園、所、小学校で見て、意見交換のときだけ集まることもできるでしょう。全員参加でなくても、集まれる人で行い、参加した人が学びを他の人に広げるようにしてはいかがでしょうか。

各園（所）、学校の幼小接続・確認シート

◆皆さんの園（所）、学校において、幼小接続の取組はどのような状況ですか。

以下の確認シートで、皆さんの園（所）、学校の取組を確認し、園（所）、学校の実態に合わせて、できることから始めていきましょう。

1 園（所）の子どもと小学校等児童との交流活動

子どもが自信や期待を高め、不安を感じないように

- ☐ 交流活動を年1回程度実施
- ☐ 交流活動を年数回、計画的に実施
- ☐ 担当者同士でねらいや子どもの育ち等を共有して交流活動を実施 ⇒【A 校区の取組】
- ☐ 交流活動中には、ねらいを意識して子どもたちへの支援を実施 ⇒【B 校区の取組】
- ☐ 交流活動後、子どもの育ちや姿をもとに保育者と教員で意見交換を実施 ⇒【C 校区の取組】

幼児の成長を共有することを通して、幼児期から児童期の発達の流れを理解するために

2 園（所）と小学校の情報共有、保育者と小学校教員による学習参観や保育参観

- ☐ 園だより、学校だより等を園（所）と学校で交換して共有
- ☐ 管理職、特別支援コーディネーター等が特別な支援を必要とする子ども等の情報収集のために保育参観、学習参観
- ☐ 園（所）の保育者が、小学校教育での学びと育ちの理解のため、学習参観に参加
- ☐ 小学校等教員が、幼児教育での学びと育ちの理解のため、保育参観に参加 ⇒【D 校区の取組】

互いの教育内容や指導方法の違いや共通点について理解を深めるために

3 保育者と小学校教員との合同研修会や研究会

- ☐ 保育参観や学習参観後に子どもの姿を通して意見交換会や話し合いを実施
- ☐ 講師を招いて幼小合同で、幼小接続に関する講演会を実施 ⇒【E 校区の取組】
- ☐ 事例（子どもの様子が分かる写真やエピソード等）を基にした意見交換会を実施

幼児期の学びと育ちを踏まえ、小学校の学習に円滑に接続するために

4 幼児期の教育と小学校の教育の接続を意識した教育課程の編成や指導計画の作成

<教育課程や指導計画の開始時期>

- ☐ 年長児1月頃
- ☐ 年長児9・10月頃
- ☐ 年長児4月頃

<教育課程や指導計画の終了時期>

- ☐ 入学から1週間後
- ☐ 入学から1か月後
- ☐ 入学から1学期
- ☐ 1学年の終了時

<編成や作成の担当>

- ☐ 保育者のみ、小学校等教員のみで編成、作成
- ☐ 保育者と小学校教員が合同で編成、作成 ⇒【F 校区の取組】

<実施や見直しの方法>

- ☐ 作成、編成した教育課程や指導計画を実施
- ☐ 実施を踏まえ、小学校等教員のみで見直し
- ☐ 実施を踏まえ、保育者と小学校等教員が合同で見直し